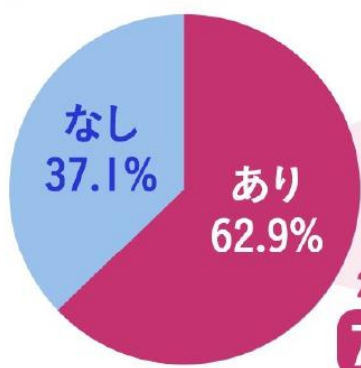


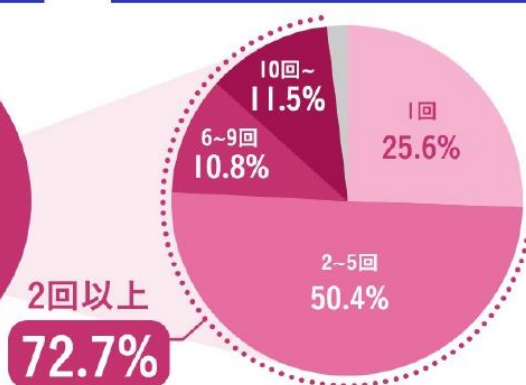
レイシャル・プロファイリングに関する 東京弁護士会調査（2022年9月、回答数2094）

レイシャル・プロファイリングの概況

職務質問の経験
（過去5年）



職務質問を受けた回数
（過去5年）



6割以上が経験しており、うち7割以上は複数回受けている

自由記載

見た目だけで薬などを持っているのではと疑われた。終始乱暴で失礼な態度で、いきなりズボンを脱がされ、下のものを見られた。侮辱的だし差別的。とても心が傷ついた。何も持ってないのを確認したら、謝りもせず、脱がせたまま立ち去っていった。本当に失礼だし、警察官としてありえない。

敷地から10歩も離れていない自宅のごみ捨て場で声かけられ、在留カードを所持していないことで交番まで連行された。学生証をみせて在留カードは家にあるから家まで同行してもいいからみせますとお願いしたものの、扉出る瞬間から在留カード所持していないと犯罪。といわれた。そのまま警察署まで連行され3～4時間ほど全身の（下線部につき、原文ママ）触れられ、指紋をとられ、経緯を質問された。そのあとパスポートのコピーが必要とのことで警察車で家までまたいかれて、自宅やパスポート、自分の顔の写真を20～30枚撮影された。また、在留カードについてもコピーとりたいから、1ヶ月内に警察署まできて提出しろといわれていたので提出はしたが自宅から警察署がかなり遠く大変だった。

出典：東京弁護士会外国人の権利に関する委員会「2021年度 外国にルーツをもつ人に対する職務質問（レイシャルプロファイリング）に関するアンケート調査 最終報告書」（2022年9月）及び、それをグラフ化した「人種差別的な職務質問をやめさせよう！訴訟」訴状陳述資料（CALL4ウェブサイト掲載）を基に井上哲士事務所作成